



開かれた未来へ。

筑波大学
University of Tsukuba

文部科学省

「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」
(リサーチ・アドミニストレーションシステムの整備)
事業タイプ(世界的研究拠点整備)

IMAGINE
THE
FUTURE.

本事業の主な達成事項と取り組みの効果

主な達成事項

- ① URA独立組織化とつくばURAコミュニティの構築
- ② 世界的研究拠点整備
- ③ 人事評価と連動した能力開発プログラムの運用
- ④ URAのテニュア化を含むキャリアパス構築
- ⑤ URA・関連部局連携で高度な研究支援を構築

該当項目

(1)-ア

(1)-ア

(1)-イ

(1)-イ

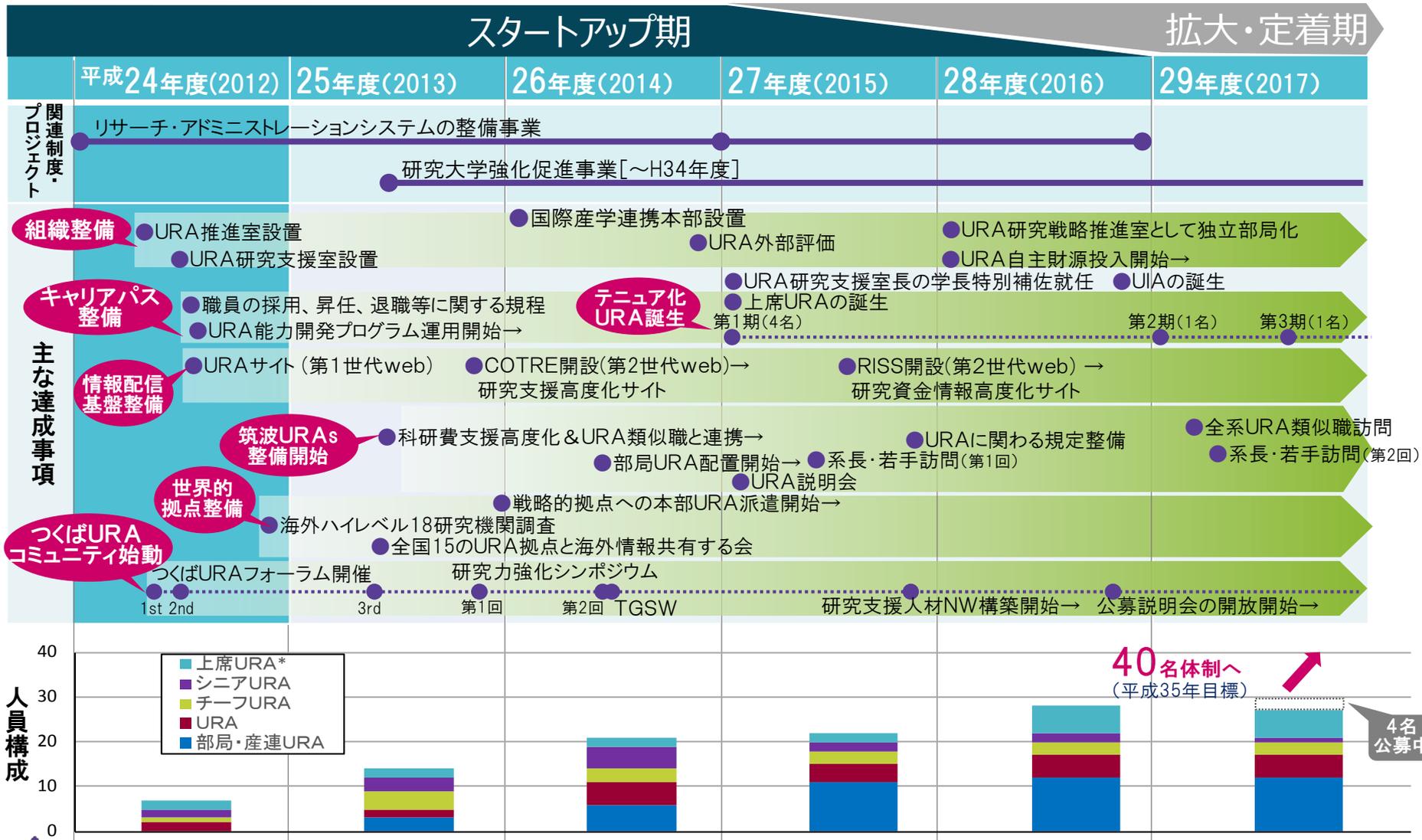
(1)-ウ

【効果】

科研費若手種目の採択率向上、共同研究の大型化・国際化、論文数と質の向上

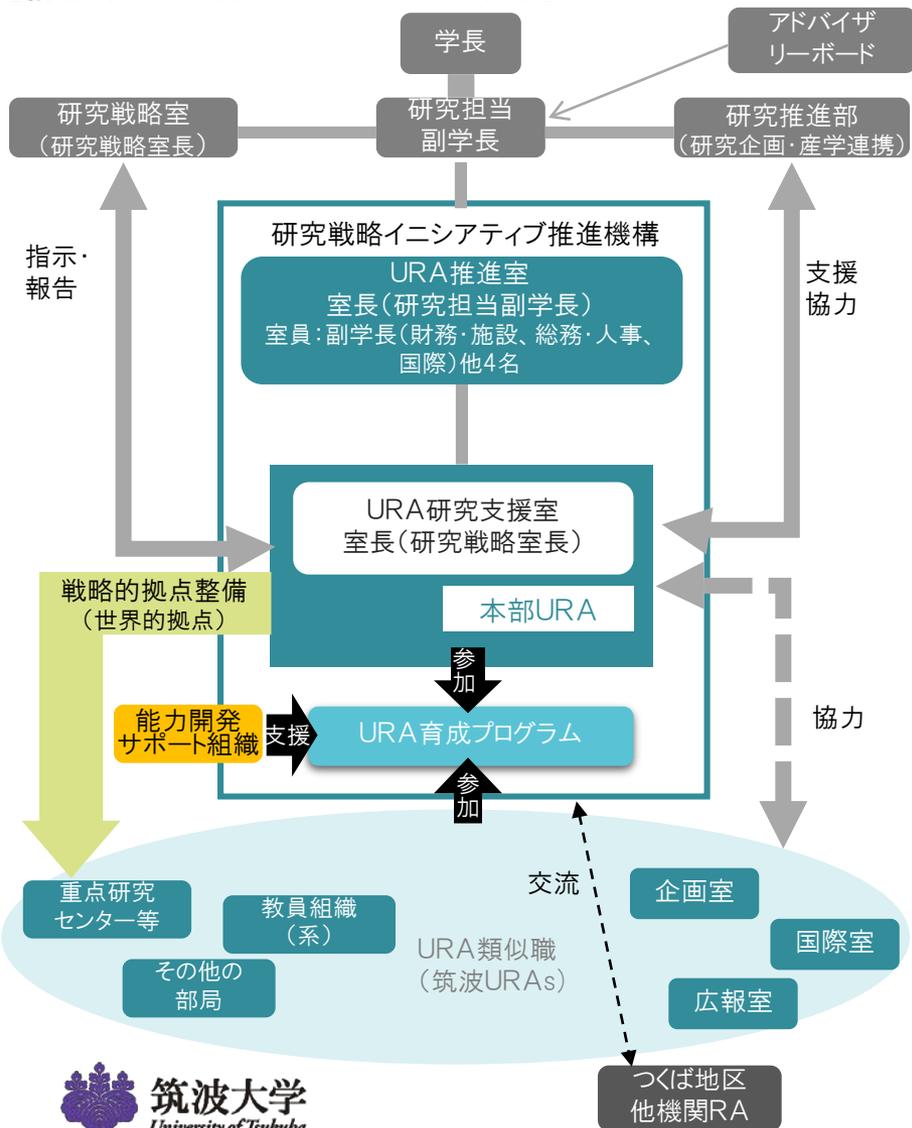
URAニーズ拡大、部局独自予算によるURAの誕生

筑波大学URA体制整備・成果概要

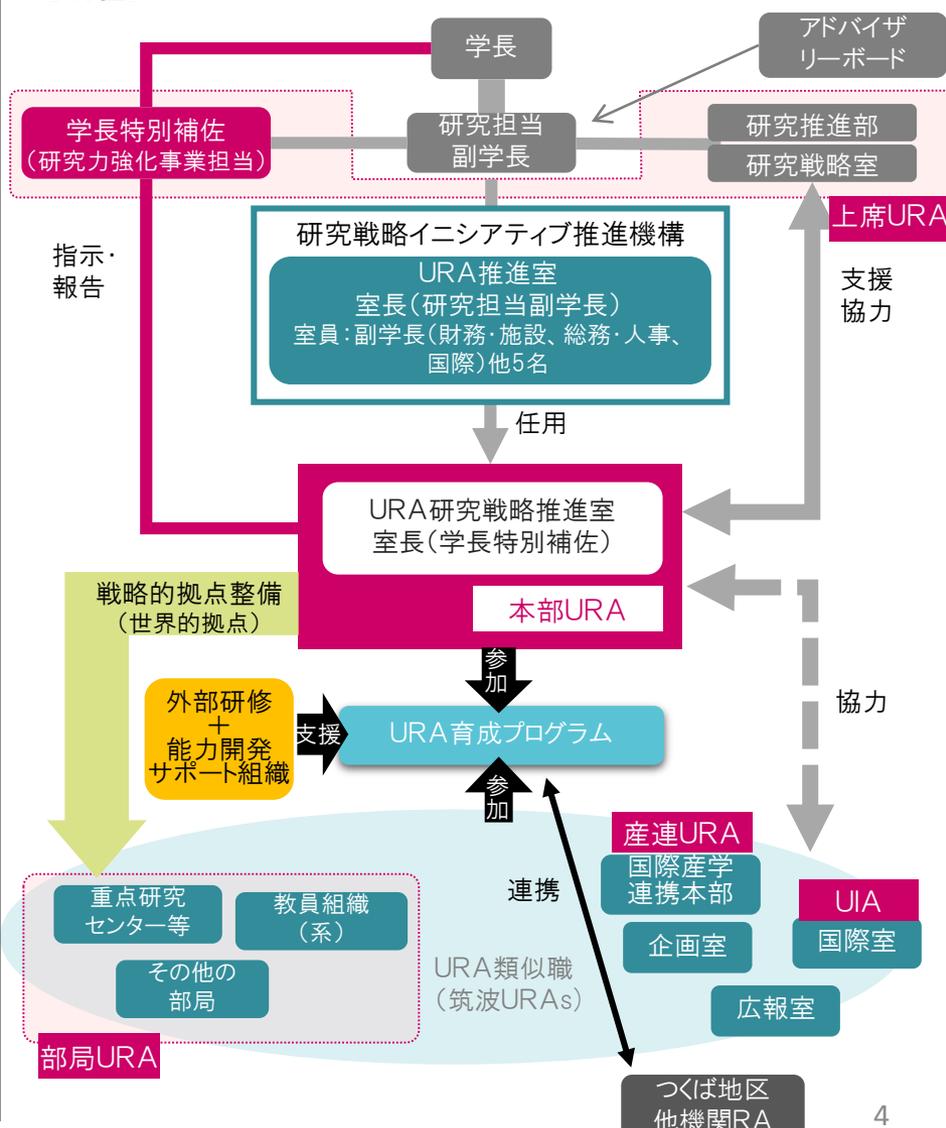


URA独立組織化と「つくばURAコミュニティ」構想の実現

【構想時のつくばURAコミュニティ】

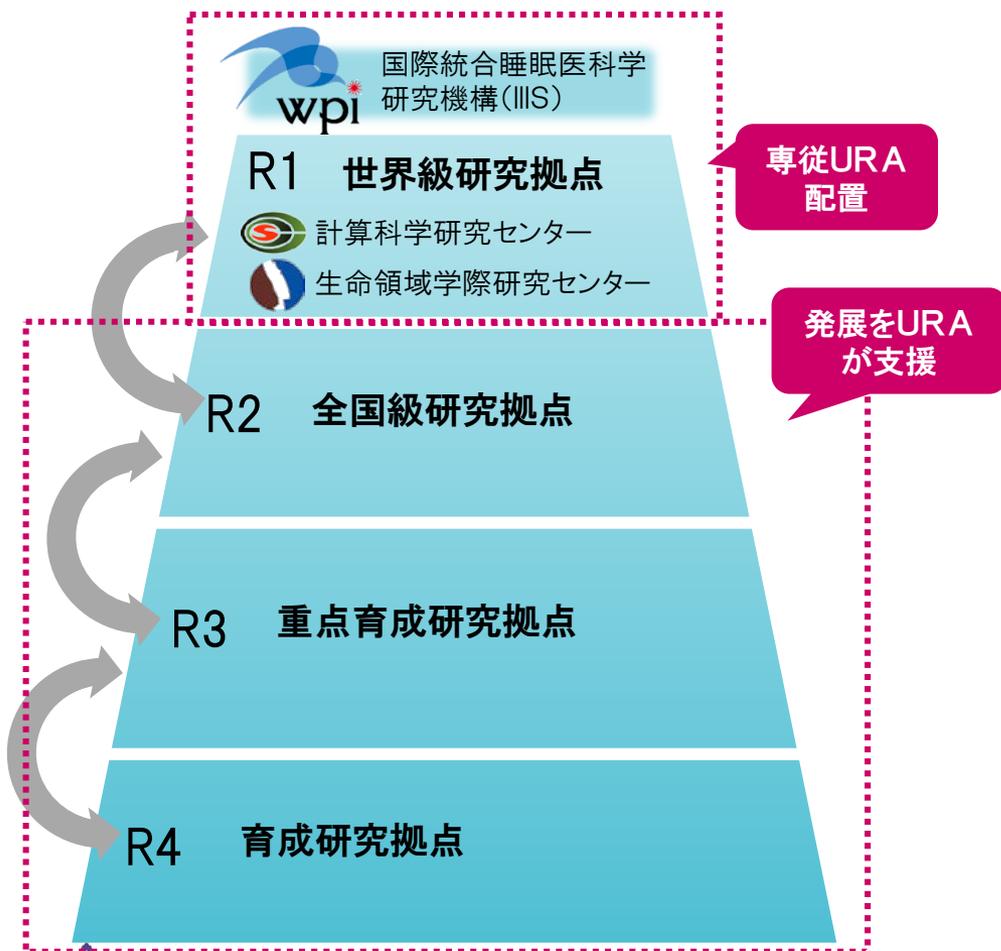


【現在】



世界的研究拠点整備

■ 現世界水準「重点研究センター」を支援 次期世界水準を作る支援構想



■ 国際テニュアトラック事業の考案・実施

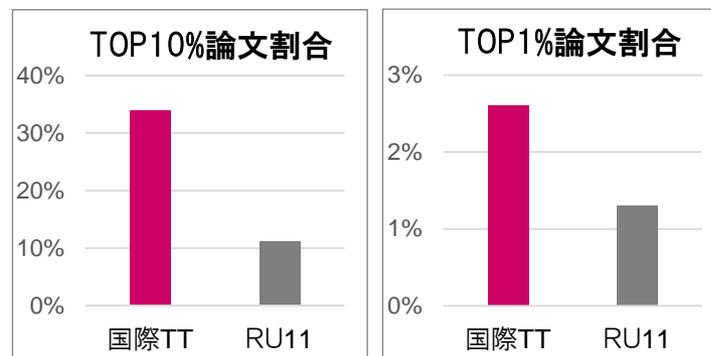
全学の研究力向上の起爆剤

テニュアトラック教員として採用後直ちに海外のリーディングラボで研究専従させる

- RU11平均を大きく凌ぐ高被引用論文割合



国際テニュアトラック助教の論文掲載誌の一部
ほか超一流誌多数掲載



ソース:Scopus (平成29.1.19) 期間:平成26年~28年

学内外への情報発信の取組状況

学内への情報配信

国内外への情報配信

イベント実施(主に筑波大学のURAシステムの組織と機能について対面での情報配信)

●学内向けフォーラムの開催

- URAフォーラム開催3回
- URA業務説明及び意見交換会(平成27年5月)
- URA類似職訪問(平成27年7月)
- 系長・若手訪問2回
- …他、FD/SD研修を50回以上開催(平成29年10月16日時点)



第1回URAフォーラムではURAシステムの現状・展望、筑波大学のURA構想を参加者に紹介した。

●全国規模シンポの開催

- 第2～4回URAシンポジウム、第1～3回RA協議会年次大会
- 海外情報交換会主催(平成25年5月)
- アメリカ科学振興協会(AAAS)年次総会参加
- …他、全国規模シンポジウム開催6件



AAAS(平成28年2月)では、ブース出展とともにミニシンポジウムを開催した。

ウェブ配信



第1世代

URA研究戦略推進室サイト
筑波大学のURA構想、体制、組織構造、メンバー、活動状況について発信。



第2世代

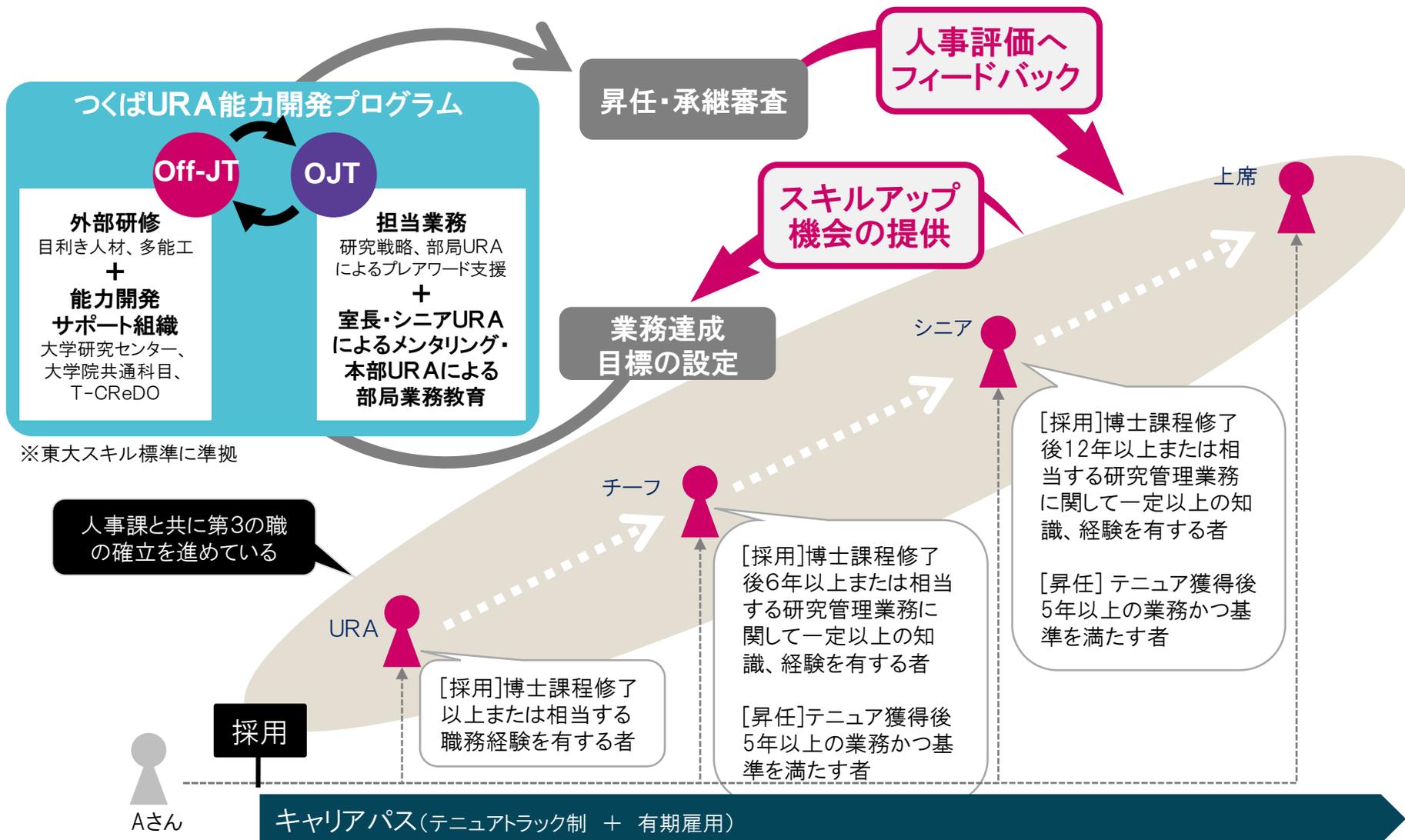
研究情報ポータルCOTRE(コトリ)
研究費申請・運用の手続き情報、学内ファンド情報など、研究に関する情報を全て掲載。

8590 views/月



筑波大の全学的な研究支援制度「リサーチユニット」に認定されている128研究チームを紹介する冊子を作成。

能力開発プログラムと審査基準

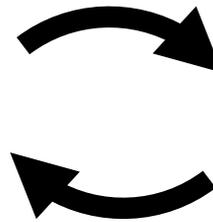


能力開発プログラム

高度な学びの機会から、支援開発につなげる

つくばURA研修・教育プログラム

Off-JT



現場のニーズから、支援開発につなげる

OJT

URA研究戦略推進室

- 上席URA・シニアURAによるメンタリング
- 業務高度化のためのシステム開発

外部研修
(目利き人材(JST)、多能工)



能力開発サポート組織

大学研究センター(RCUS)
大学院共通科目
つくば臨床医学研究開発機構
(T-CReDO)(元CREIL)

内外講師

URA主催セミナー

習得する能力項目

(7)、(8)

つくば臨床医学研究開発機構(T-CReDO)

医療分野における研究支援、
安全管理、データ管理等

(10)

国際産学連携
本部

多能工型研究支援
人材育成プログラム

安全管理、産学連携、技術移転、知的財産、
秘密保持条約、国際契約等

(11)

大学研究センター(RCUS)

大学の歴史、大学に関する知識、
大学マネジメント能力等

大学院共通科目

科学技術、研究マネジメント、
倫理コンプライアンス、
サイエンスコミュニケーション、語学力等

(1)~(7)

研究経験、研究マネジメント経験、科学技術の基礎知識、学位取得、語学力、
コミュニケーション能力等、様々な基礎知識・能力

(5)



機能

内容

研究戦略機能

研究企画・調査、
国際研究動向調査、組織横断型プロジェクト・メーキング等

国際連携機能

国際交流・共同研究、国際的産学連携や
知財関連業務等

コンプライアンス関連機能

各種規制・規則、研究倫理、利益相反、
動物愛護その他のコンプライアンスに関わる機能

URA 業務高度化
促進機能

URA 業務高度化のための調査分析、
web ベースURA サービス提供システム
開発等

つくばURA能力開発プログラムの能力項目

(1)URA業務遂行の知識・資質、(2)大学に関する知識・理解、
(3)科学技術に関する知識・資質、(4)科学技術システム全般の知識、
(5)研究活動の運営に関する知識、(6)URA業務に関する知識、
(7)研究戦略・研究企画の知識・能力、(8)国際連携の知識、能力、
(9)コンプライアンスの知識、能力、(10)産学連携の知識、能力、
(11)知的財産権等の知識、能力、(12)医療分野研究管理の知識、能力、
(13)一般的能力・資質

URA・関連部局連携による高度な研究支援と効果

研究戦略機能

- 科研費獲得支援の国際化(英語科研費セミナー)
- 資金・研究者別の支援体制の構築
- 組織横断型プロジェクトメイキング
- 革新的な基礎研究成果のシーズ探索
- つくば地域の研究支援者ネットワーク構築

連携部局

研究推進部
産学連携部

国際連携機能

- 執行部による戦略的な国際協定締結の支援
- 協定校の研究力分析協力

+ 国際室

コンプライアンス関連機能

- 研究倫理規則策定
- 法令遵守項目の記載に対するアドバイス

+ 研究企画課

URA業務高度化促進機能

- 研究情報ポータル「COTRE」開発・運営
- 研究資金情報サイト「RISS」開発・運営
- URA専用・資金切れ検出システムの開発
- FD/SD研修の開催

+ 情報基盤課、
広報室、人事課、
附属図書館、
DACセンター

部局URAの先進的な取り組み

- 人社系研究論文の指標作成
- 体育系ランキングの作成
- 数物系オープンラボ・インストラクションプログラム構築

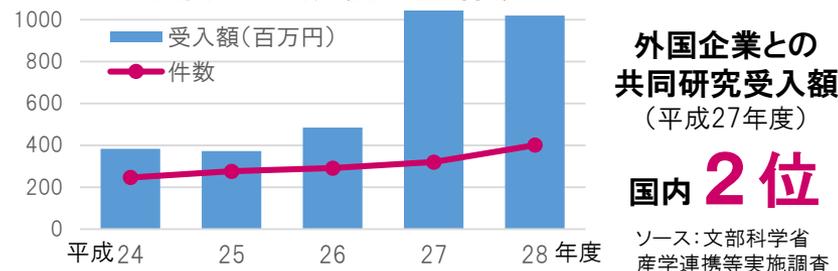
部局長、研究支援

科研費若手種目の採択率向上

平成23-24年度	平成27-28年度	平成28-29年度
37.2%	40.3%	43.0%

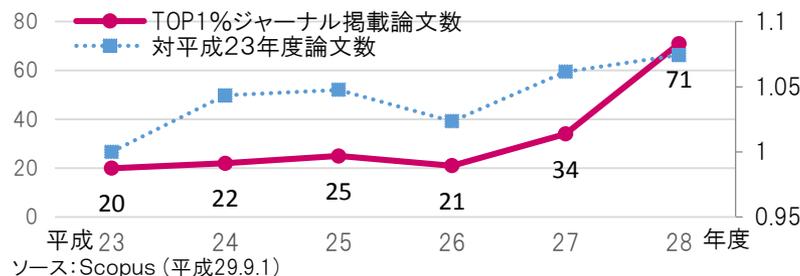
共同研究の大型化・国際化

民間共同研究受入額・件数



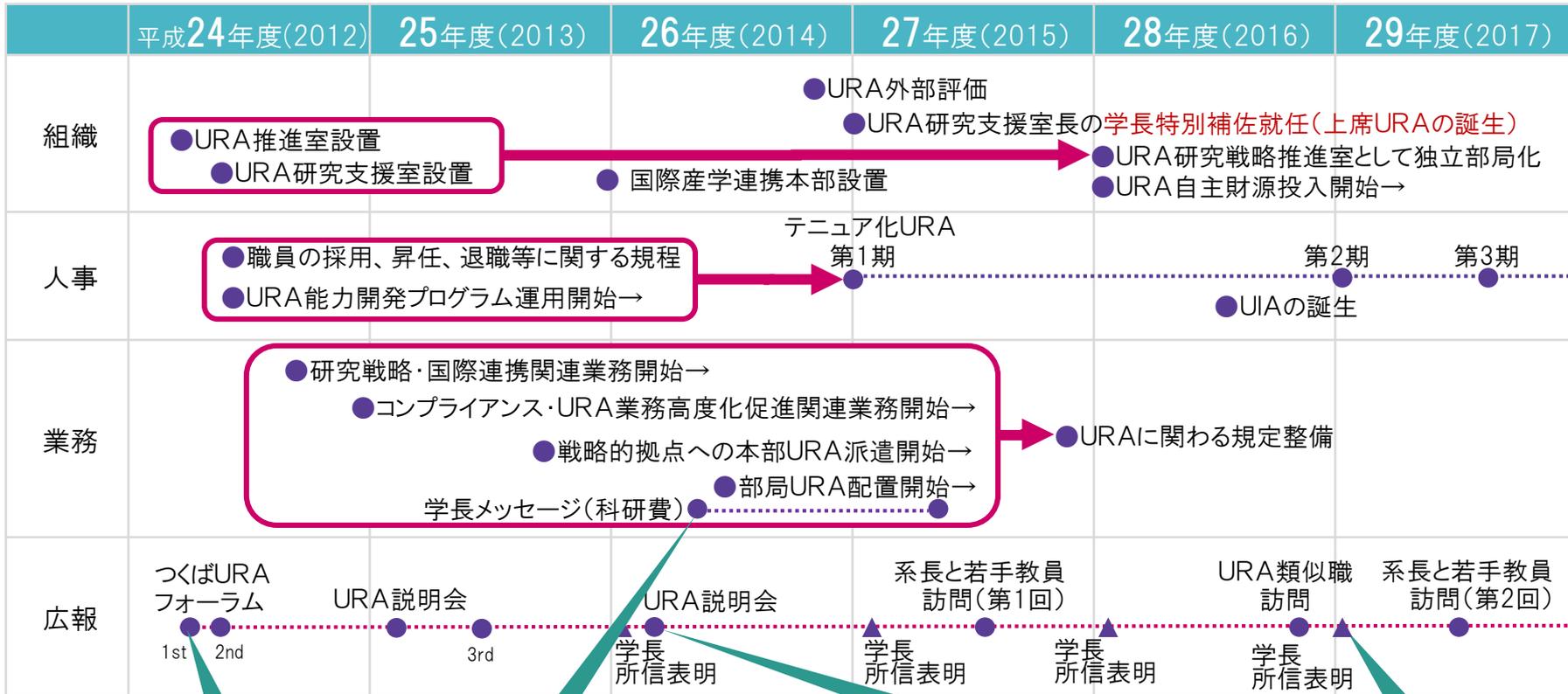
論文数と質の向上

論文数増加幅は
RU11中1位



URAニーズ拡大:競争的研究資金獲得、評価、戦略立案、分野強化、新規プロジェクト立案・実施、研究成果広報...→部局・センター・プロジェクト等が独自予算URAを雇用

URA組織体制整備と役員のリダーシップ




筑波大学のURA構想と展望を学内外の出席者に紹介(平成24年7月)



科研費応募に向けた学長メッセージ(平成26年5月)



部局支援のあり方を議論(平成26年5月)



URAシステムの定着・運営の安定化に言及した所信表明(平成29年4月)

業務開発と学内展開

URAによる新たな研究支援

- 科研費計画調書改善支援
- 『書き方の手引き』刊行(日・英)



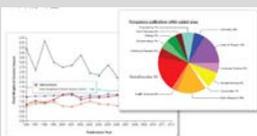
全45ページ
DL回数600以上

- 科研費初心者のためのヘルプデスク
- 外国人支援
- 特定種目獲得支援
- 模擬ヒアリング



研究用ツール紹介、研究倫理教材、セミナーの動画配信

- 研究分析ツール講習会
- 過去のセミナー資料・動画配信



研究情報ポータル「COTRE」



8590 views/月

国内外の教員へ一元配信

つくばキャンパス・東京キャンパス
+
筑波大海外拠点、在外研究先

研究資金情報サイト「RISS」

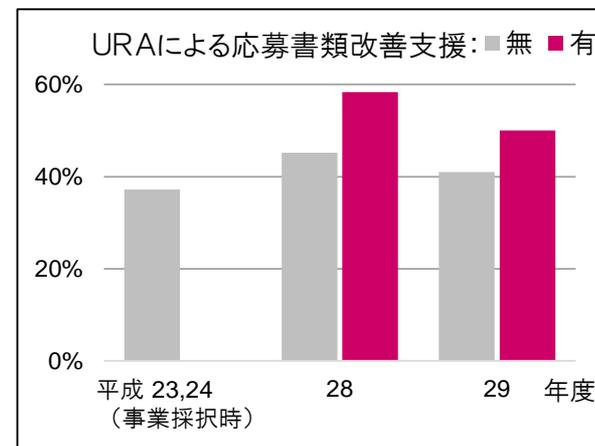


7546 views/月

国・政府系・財団等公募情報を一元化、検索・メール配信機能搭載

主な効果

■ 科研費若手種目の採択率向上



- 共同研究の大型化・国際化
- 論文数と質の向上

つくば地域の研究連携活性化・URA連携構築

つくばでイノベーションを継続的に創出するために

- ① 研究コミュニティの可視化 研究者同士の化学反応を引き起こす
- ② 連結させるための研究支援人材ネットワークを構築する

KEKのURAと共同で「TIAかけはし」プロジェクトで実施



平成28年 つくばに於ける研究連携の可視化と活性化を目指す「つくば連携支援ネットワーク」の構築
平成29年 つくば研究コミュニティの可視化と連結

①研究コミュニティの可視化

つくばの研究コミュニティガイドTREE(開発中)



webサイトを持たない研究コミュニティに発信の場を提供

- ✓ 自主的なコンテンツ運営
- ✓ 分野・キーワードで検索
- ✓ 活発なコミュニティを上位表示
- ✓ レコメンド機能：“コミュニティAはBと繋がりが深いです！”

②研究支援人材ネットワークを構築

シンポジウム・ワークショップの共同開催

芽生えた共同研究の種を育て、外部資金獲得を支援



+ つくばサイエンスアカデミー(SAT)



+ JAXA



+ 農研機構

- つくば産学連携強化プロジェクト 新技術説明会
- つくばイノベーション・エコシステムの構築
- つくばライフサイエンス推進協議会

未来社会創造事業テーマ公募説明会(平成29年2月)
科研費改革2018説明会(平成29年7月)

対象者を「つくば地域の研究機関所属者」に拡大し実施
産総研、農研機構、JAXA、気象研究所、KEK、NIMS、防災研、科博の研究者・事務担当者が参加

理科学系以外での研究力評価指標の開発

■ 背景・趣旨・目的

人社系や体育系などの研究力は自然科学系で使われる指標では測れない

■ 方法と成果

★人社系の研究指標の開発

- 方法: 学術雑誌の著者所属機関・国の多様性(数)に基づき質を定量
- 成果: Scopusなどのデータベースに収録されていない人社系の多くの雑誌の質を定量化する手法Index for Measuring Diversity (iMD)を筑波大独自に開発(特願2017-138751)
⇒ すでに筑波大学人文社会系の組織評価指標としてiMDが採用されている

★体育系の研究指標の開発(2015年)(クラリベート・アナリティクス社と共同開発)

- 方法: 体育・スポーツ科学分野の教育 研究部門を有する世界の大学へのアンケート調査とトムソンロイターデータベースの文献情報に加え右に抜粋するデータから計算
- 成果物: 教育、研究、競技、総合性のカテゴリで「世界的に卓越した大学」選定



プレスリリース(平成27年11月)
「体育・スポーツ科学分野における新たな指標とその結果の発表」
 筑波大学は教育、競技、総合性のカテゴリで「世界的に卓越した大学」として選定された

総合性
 Loughborough University (UK)
 University of Calgary (Canada)
 University of Tsukuba (Japan)

体育系の研究評価指標抜粋

カテゴリ(評価比率)	評価指標	重み付け
教育 (35%)	① 学生数に対する教員数の比率	Mid
	② 奨学金を受けている学生の数	Low
	③ 奨学金を受けている学生数の全学生数に対する比率	Low
成果	① 博士号授与の数	High
	② 就職率	Low
多様性	① 授与している博士号の種類	Mid
	② 開設している授業の数	Mid
国際性	① 留学生の数	Low
	② 留学生数の全学生数に対する比率	Low